

## 進捗状況の概要（1 ページ以内）

## 学内の実施体制

学長のリーダーシップの下、学生サポートセンター、EM・IR 部と連携しながら、学科会議を AP 事業の実施委員会と位置付けた。AP の各項目に学科内の担当者を割り振り、全員が何らかの項目責任者となって学科全体で推進している。

## 中心となる取組

中心となる取組は、(1)アクティブ・ラーニングの活性化と(2)学修成果の可視化システムの構築である。

## (1)アクティブ・ラーニングの活性化

「読み・書き」分野については H29 年度から「アクティブリーディング」を開講した。正課外アクティビティの授業化の点で言えば、H29 年度からは学生提案型授業を公募制として制度を整えた。

アクティブ・ラーニングの活性化を保障するための仕組みとして導入したのがアクティブ・ラーニング・マスター(ALM)制度である。個人レベルでの制度と組織レベルでの制度の 2 つを一体化することを考えた。個人レベルでの制度の柱として、アクティブ・ラーニングのスキルアップのために、「プレゼンテーション演習 I」を全専任教員が交代で担当することとした。組織レベルでの制度はシラバスの改良で実現することとした。

## (2)学修成果の可視化

H27 年度に、ディプロマ・ポリシーの下に分野ごとの到達目標としてミドルレベル・ディプロマ・ポリシーを設定した。H29 年度、ミドルレベル・ディプロマ・ポリシーの妥当性を検証した結果をもとに、さっそくミドルレベル・ディプロマ・ポリシーとカリキュラムマップの見直しを行った。

ディプロマ・ポリシーを核とした達成度評価の中心となるのが総合的評価提示システムである。H29 年度は非常勤講師も含めた全科目を対象に稼働した。出力データをもとに、ディプロマ・ポリシー各項目の達成度間の相関分析等の分析を行った。さらに、リアセック社の PROG を実施し、PROG テストとディプロマ・ポリシー達成度との相関分析を行い、初期的結果を得た。

総合的評価提示システムの出力データを学生に対して効果的に提示することを目的に、目標設定シート、ふりかえりシートの開発も行った。

## 取組の成果

取組の成果として大きいものの一つが、到達目標体系・評価体系の改善のための PDCA サイクルの確立である。そのためには体系の妥当性・有効性を測るための基準が必要であるが、本学では、総合的評価提示システムの出力をもとに、「DP の各項目が一定独立した目標・評価基準として機能していること」と設定することができた。さっそく H29 年度は、この基準のもとミドルレベル・ディプロマ・ポリシーの改善を行ったところである。

## 補助期間終了後の継続発展に向けた取組

補助期間終了後の継続発展に最も重要なものの一つが、総合的評価提示システムの安定的稼働のしくみをつくることであるが、H29 年度の改修によってほぼそのための条件を整えることができた。

## 学内外への波及効果

AP 期間内の一過性的なものにとどまることなく、AP 事業期間終了後も継続する交流の場として、全国の短大の学生、教職員が集い、グループワーク等を行う「短大フォーラム」を H28 年度から始めた。H29 年度は H30 年 2 月 27、28 日に松本大学松商短期大学部で開催され、本学から学生 20 名、教職員 6 名で参加した。

テーマ I・II 複合型幹事校として、他のテーマの幹事校と連携して、5 つのテーマ全体として統合された高大接続改革の普及のための活動にも取り組んでいる。2 月には本学において「幹事校会議」を実施し、H30 年度に AP アーカイブを作成すること、チーム AP 合宿を実施することを決めた。また、「チーム AP」活動の一環として、京都光華女子大学、富山短期大学、追手門学院大学、長崎短期大学、松本大学松商短期大学部との共催で 2 月 20 日「全テーマ合同報告会」を実施した。